

善隣

No.574 通巻841

2026年（令和8年）8月1日発行（毎月1日発行）

2026 2026
8・9
（合併号）



一般社団法人 国際善隣協会

善 隣 目 次 2026年8月・9月合併号

公開講演会記録

映画で社会を動かす……………小原浩靖	2
2026年後半の中国と世界 ——中国経済の不振と不透明な中東情勢……………結城 隆	12
国際善隣協会 公式 YouTube チャンネル……………	21
本 の 紹 介 『満洲国の話』が刊行されました……………藤川琢馬	22
中国ウォッチング ……………編・訳 上松玲子	24
陶陶俳壇 ……………馬場由紀子	26
令和8(2026)年度役員・顧問・諮問会委員名簿／常任委員会 委員長・ 副委員長・委員名簿……………	27
協会通信……………	28
2026年8月・9月の行事予定……………	29

みんなの写真館

美しいフルンボイル大草原／姜晋如……………表紙／	28
花の寺・本土寺のアジサイ／伊大知重男……………表4／	28

— 善 隣 第574号 通巻841号 —

2026(令和8)年8月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03(3573)3051
FAX 03(3573)1783

発行人 井出亜夫

編 集 原田克子

校 正 山谷悦子、古田紀子

印刷所 (有)ゆにおんプレス
TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

映画で社会を動かす

映画監督 小原浩靖



私はこれまで3本のドキュメンタリー映画を作ってきました。中国残留孤児とフィリピン残留日本人を描いた『日本人の忘れもの フィリピンと中国の残留邦人』（2020年）。関西電力大飯原発の運転差止めを命じた樋口英明元裁判長と福島で被災から立ち上がる農業者を描いた『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』（2022年）。その続篇にあたる『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』（2025年）。私はいつも映画の力で社会を動かし、問題を解決することを目標にしています。この寄稿では、私

の映画がどのように社会に作用しているのかをお伝えします。

『日本人の忘れもの』は日本政府を動かしました。中国残留孤児の現状とまだ知られざるフィリピン残留日本人二世の日本国籍回復を描きました。戦前まで米国領だったフィリピンには、およそ3万人を擁する日本人社会がありました。日本から出稼ぎにきた男性の多くは世界的流通に成功したマニラ麻の繊維産業に従事し、現地の女性と家庭を築いていたのです。

太平洋戦争勃発で日本の軍政が敷か

れたことにより、男たちは軍人・軍属に徴用されましたが米軍の報復で敗戦、日本に強制送還されてしまいました。残されたフィリピン人の妻と子どもたちは、日本人であることが知られることを恐れ、婚姻の証拠や出生証明の書類を捨てて離島や山の奥深くに身を隠して暮らし始めました。当時の法律ではフィリピン人の妻も二人の間でできた子どもも国籍は日本です。日本の占領時、フィリピン人は日本軍によって酷い差別と迫害を受けていたことから、日本人であることが分かれば殺されてしまう可能性があったのです。



写真1 3作品のポスター

日本人として育てられ、日本の名前を持ち、日本語を話し、日本人学校に通う豊かな暮らしを送っていた子どもたちは一転して人里離れた場所に身を隠し、日本語も名前も捨てて教育を受けられない状態に陥りました。この子どもたちのことをフィリピン残留日本人二世と呼びます。映画は、無国籍状態のまま平均年齢80歳を超えた残留日本人二世たちを探し出し、日本国籍回復のために奔走する弁護士たちと支援団体のみなさんの活動を描くことで、この問題の周知はもとより、日本政府に解決を促すことを目的に作られました。

映画が完成するとすぐに国会議員らにDVDの配布や参議院会館での試写などを始めました。この活動のあいだに見えてきたものは実にこの問題が知られていないということでした。超党派で組織される日比友好議連の議員ですら、残留日本人二世の存在自体を知りませんでした。中国残留孤児の認知度とは雲泥の差で

す。

コロナウイルス災禍の公開で劇場の動員がままならない中、立憲民主党の白眞勲議員が本作をご覧になり、支援団体であり映画の中で活躍するNPO法人フィリピン日系人リーガルサポートセンターに協力を申し出てくださいました。白氏は自身が在日韓国人二世であることから国籍による差別を強く憂い、当該問題の解決に行動を起こしました。まず、2021年5月25日の外交防衛委員会で作本のワンシーンを引用しながら茂木敏充外務大臣らに問題への理解を促しました。さらに2022年3月10日には参議院予算委員会で岸田文雄総理大臣らに対して同様に訴えました。総理は「政府一丸となって問題の早期解決に務める」と明言しました。

そして2025年4月29日。石破茂総理大臣はマニラで残留日本人二世の代表者と面会し、「政府として国籍回復を支援する」と明言。在マニラ日本大使館の大使、領事らの支援活動が活発化し、塩村あやか氏など、白氏のあ

とに続く国会議員も現れました。しかし、まだまだ問題の終わりは見えません。ご高齢の残留二世の方々の「日本人と認められたい」という生涯の願いをかなえられるよう一層の支援が必要です。その第一歩として映画は政治を動かしたのです。

『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』については、制作の経緯からお伝えしましょう。きっかけは『日本人の忘れもの』のプロデューサーであり脱原発弁護団全国連絡会の共同代表・河合弘之弁護士からのひと言でした。2021年2月、河合さんから「小原さん、樋口理論を映像化してYouTube（YouTube）で公開しようよ」というご提案をいただいたのです。

2014年5月に福井地方裁判所で関西電力大飯原子力発電所の運転差止命令を下した裁判長・樋口英明さんは、定年退官後に、原発がいかに地震に弱いのかを理論立て、それを啓発する講演活動を始めました。その理論は通

称【樋口理論】と呼ばれ、全国の原発差止訴訟の重要な争点になっています。その理論は次の5節で構成されています。

- 1 原発事故のもたらす被害は極めて甚大である。
- 2 それゆえに、原発には高度の安全性が求められる。
- 3 地震大国日本において原発に高度の安全性があるということは、原発に高度の耐震性があるということに他ならない。
- 4 しかし、わが国の原発の耐震性は極めて低い。
- 5 よって、原発の運転は許されない。

樋口さんは訴訟で大飯原発の耐震基準がいかに甘く見積もられているかを知り、退官後、独自に全国各原発の耐震基準と2000年から20年間に起きた地震の強さとを比較しました。その結果、すべての原発の耐震性は極めて低いことが明白になり、この理論を確立しました。さらに一般の戸建て住宅

の耐震性能は原発のそれをはるかに上回ることも解り、この理論は揺るぎないものとなりました。

河合弁護士が言った「樋口理論の映像化」とは、地震の加速度を表すガルという単位を用いて各原発の耐震性能、2000年以降に日本で起きた地震のガル数、住宅メーカーの耐震性能をグラフで可視化して解説することでした。

河合弁護士からの提案を受けた私はユーチューブで公開することにはすぐに反対しました。絶対に映画にするべきだと思ったのです。ユーチューブは視聴者が趣味趣向に合った動画を好んで見る傾向が強く、公開しても脱原発を標榜する限られた人たちにしか届かない恐れがあります。内輪受けのように「そうだ、その通りだ」と盛り上がったって社会を動かすインパクトにはならない。対して映画館で公開されると、街ゆく人がポスターを偶然見かけ「よく分からないけど、面白そうだから観てみよう」というように問題意識を持たない人にも届けることが可能

で、それこそが社会的インパクトにつながるのです。河合弁護士に私の考えを話すと、「よし分かった。小原さんの思うように企画してみて!」と映画プロデューサーの役を買って出てくれたのです。

私はすぐに頭の中で映画の輪郭線を描きました。樋口さんの活動を追うことと樋口理論の映像化は必須です。講演会で全国を飛び回り、樋口理論を著書『私が原発を止めた理由』（2021年、旬報社刊）にまとめた樋口さん。裁判官の多くは退官後、弁護士になる人がほとんどですが「そんなことをしている場合ではない」と人生を脱原発にささげています。映画の主人公として申し分ないキャラクターです。しかし、私はもっと膨らみのある映画にしようとした。輪郭線も描きました。原発に替わる電力の提示です。

私は2016年に河合弁護士と共に千葉県匝瑳市のソーラーシェアリング農場を訪問しました。映画『日本と再生』（河合弘之監督2017年公開）

の撮影でした。営農型発電とも呼ばれるソーラーシェアリングは、農地上に太陽電池パネルを張り巡らすことで農場を発電所化し、農家が電力を販売する取り組みです。この画期的なシステムに触れて私は、ソーラーシェアリング農場誕生の様子を撮ることができれば映画になると感じたのです。地上では種がまかれ、発芽して花を咲かせ作

物が収穫される。その中空では支柱が建てられ、太陽電池パネルが並べられて発電を始める。ひとつの場所でふたつのストーリーを描けると確信したのです。

樋口さんの生き方とソーラーシェアリング農場誕生の映画。樋口さんに映画の構想をお伝えすると二つ返事でご



写真2 上：近藤恵さん／下：樋口英明元裁判長の講演会

登場を快諾していただきました。問題はソーラーシェアリング農場の誕生を撮ることができるかです。映画に出ていただける農家さんを探すのに時間がかかると思っていましたが、意外にもすぐに見つけることができました。

河合弁護士からの提案から1か月も経たない2021年3月11日、私はユーチューブで生配信された「福島からエネルギーを作る」という番組を見ました。そこに登場したのが本作のもうひとりの主人公・近藤恵さんでした。近藤さんは福島県二本松市で有機農業を営んでいましたが、原発事故で拡散された放射性物質によって農業を続けることを断念しました。しかしソーラーシェアリングに出会い、発電事業も行う農業者として新たなスタートを切るとのこと。農場の規模は東京ドームの面積を超える6ヘクタール。間もなく着工すると言うのです。私は近藤さんこそが映画のもうひとりの主役にふさわしいと直感して、日本を代表する再生可能エネルギーの立役者、環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也さん

に近藤さんをご紹介いただきました。

私が脱原発と再生可能エネルギーをひとつの映画のテーマにした理由は、河合弁護士や飯田哲也さんとの十数年のおつきあいを感じた脱原発派と再生推進派の乖離でした。河合さんも飯田さんも「脱原発のための再生エネ」、「再生エネ普及の果ての脱原発」を目指しておられるのですが、実際には両者の交わりは乏しいのです。意外にも脱原発派の方々はソーラーシェアリングを知らず、再生エネ推進派の方々は大飯原発樋口判決の内容を知らない方が多いのが現実です。それならば、映画で両方を知ってもらおうと狙いを定めたのです。もちろん問題に関心がない方、原発稼働を容認する方、原発推進派、福島事故を知らない若い世代に映画を届けることが大切な目的なのですが、交わりやすいはずの両者を一つにまとめる重要性もあるのです。

話を戻します。近藤恵さんに映画へのご登場をお願いしたところ、快くお引

き受けいただきました。ドキュメンタリー映画に出るということは、その人の人生に少なからず影響を及ぼします。よい影響であればいいのですが、その逆になる危険性もあります。私のように大きな実績のない監督の依頼を引き受けるまで近藤さんは悩まれたと思います。今となっては映画の影響で近藤さんの取り組みは広く知られて応援する人たちもたくさん現れたので結果的には良かったのですが、作品が完成するまでは心配されていたと思います。

初めて近藤さんとお会いしたのは企画開始から3か月後、二本松市笹屋にある整地中の広大な農場でした。ジャングルのように荒れていた元水田の耕作放棄地が更地に生まれ変わろうとする様子を案内していただきながらの撮影でした。身長182センチ、よく喋り、よく笑い、身振り手振りの大きな近藤さんをファイナダー越しに見て「この人はスクリーンに映える。たくさんのお客様がファンになる」と思いました。劇映画もドキュメンタリーも完成度は

キャストینگで決まります。原発事故で人生を変えられてしまった悲哀よりもこれから始まる大事業への期待に胸膨らませている明るい人。これが近藤さんの第一印象でした。

一方、樋口英明さんに初めてお会いしたのも同じ5月。広島地方裁判所での四国電力伊方原子力発電所の仮処分申立て期日の集会でした。樋口さんは河合弁護士からの依頼で弁護団のアドバイザーとして参加されていました。ユーチューブで何度も樋口さんの講演会を見ていましたが、実際にお会いして穏やかに、淡々と論理を語りながらも時折一流の冗談を挟む話法に魅了され、映画の主役を張る揺るぎない存在感を確信しました。映画が好きな樋口さんは、ドキュメンタリーをどうやって作るのかに大変興味があり、私の作法を熱心にニコニコ笑いながら聞いてくださいました。

この映画の登場人物は樋口さん、近藤さんをはじめ河合弁護士、近藤さん

と共にソーラーシェアリング事業に乗り出した二本松有機農業研究会代表の大内督さん、大内さんの父で福島有機農業創始者の大内信一さん、近藤さんの元に農業高校卒業後すぐに就農した塚田晴さん、二本松で生まれ、30代半ばに近藤さんの会社で就農した菅野雄貴さん、クレヨンハウス主宰で作家の落合恵子さん、私と近藤さんをつないでくださった飯田哲也さん、そしてソーラーシェアリングの生みの親である長島彬さんという顔ぶれになりました。

公開後、舞台挨拶や自主上映会の講演で私は冒頭に「この映画は登場人物全員がカッコいい珍しい作品」と話していますが、みなさん一本気で信頼をおける人物でスクリーンからそのパワーが放射されています。特に農業者のみなさんの言葉の説得力、晴れやかな笑顔に魅了されたお客様がたくさんいて、二本松に農場見学に行く人たちもいるほどです。

本作では撮影も録音も私が一人で担いました。理想的なドキュメンタリー

撮影の座組は監督、カメラマン、録音技師の三人体制なのですが、撮るものは自然相手の農業、種まきや定植、収穫も天候次第になり、その都度スタッフの予定を合わせることはできないので全て私が担当しました。「明日小麦を刈り取ります」と連絡を受けたら日の出前に車で東京から4時間の二本松に向かう。そういうフットワークで挑まなければ農業は撮れません。当時はコロナ禍中の撮影だったこともあり、一人で撮ることでみなさんから安心していただけた利点もありました。また、小さなハンディカムでの撮影は物々しさがなく、ごく自然にみなさんの仕事ぶりを撮ることができ、被写体との精神的な距離も縮まります。これは樋口さんの撮影でも同じで、講演会で来場者を撮らせていただくときにも有利でした。大きなカメラでは被写体を緊張させてしまいがちですが会話を流れですんなりインタビューを撮ることができます。そして、一人での映画作りは大幅なコストダウンがかないます。

撮影期間は5月から11月までの7か月間でした。この間に触れた農作業と農業者のみなさんに私は大いに刺激されました。月日とともに育つ作物の美しい変化、きめ細かな作業で我々の食を担う農業者みなさんの努力と実りに感銘を受けたのです。

拡散された放射性物質で福島農家は壊滅的な被害を受けました。近藤さんの師匠である二本松有機農業研究会の前代表・大内信一さんに私はインタビューで「事故後どのようにして農業を続けられたのか」と質問したところ、信一さんは次のように答えてくださいました。

・春先に植えたほうれん草から基準値を大きく超えるセシウムが検出され、トラック10台分を廃棄した。

・一方で、同じ畑に植えたネギからは全くセシウムが検出されなかったことから、葉を広げたほうれん草がセシウムを受け止めて土を守ったのだと推測。

・その後、ネギを何度検査してもセシウムは検出されなかった。土からセシウムは検出されるが、ネギはセシウムを吸収していない。

・ほかの作物からも基準値を超えるセシウムは検出されなかった。

・有機農法の養分豊かな土で育てた作物はセシウムを吸収せずに育つと推測。

・二本松の土は粘土質が高いためセシウムを定着させ、植物は養分だけを吸収する。

大学教授とともに研究した右の考察で信一さんは「植物からその能力を教えてもらった」とおっしゃいました。

事故を機に福島から離れた農家さんは多くいます。50年間有機農法を研究してきた信一さんも当初は農業を諦めなければならぬかと考えたそうです。信一さんを知る全国の有機農業者

の方々は映画で信一さんの笑顔をご覧になり、お元気でよかったとおっしゃいました。

多くの農業者を苦しめる原発事故は日本の食料事情を悪化させます。カロリーベースで38%という食料自給率は日本という国の脆弱性そのものだといえます。それに加えて地震大国でありながら数多ある原発はテロの標的にもなる。日本は食もエネルギーも極めて危うい状態です。私は原発と農業を映画のテーマにしたことに作家としての大義を感じながら制作していました。

劇場公開は2022年9月10日。この年は原発問題が社会的にクローズアップされました。3・11以降、原発の勢いはどんどん弱くなっていました。2月に起きたロシア・ウクライナ戦争でロシアがザポリージャ原発を攻撃。放射性物質拡散の危険性が再び注目されました。その中で6月に岸田首相が原発再稼働、新增設を宣言したことから社会的な不安が増して報道でも原発問題が多く扱われました。これ

によって本作は公開前から話題の映画になりました。東京のポレポレ東中野での単館公開初日は満席になり、公開期間中、座席はほとんど埋まりました。

原発問題を扱った映画の客層は、どの作品も60代以上が大半を占める傾向にあるのですが、本作は違いました。30、40代が多く、大学生もたくさんご来場いただきました。前述の通り原発が話題になった影響が大きく、日頃から食の安全性を重んじている若いお客様が目立ちました。意識の中で薄れていた原発問題が本作で蘇り、原発事故の記憶がほとんどない学生さんにも事故が起これば生活まるごとが変わってしまうことを強く印象づけられたと思います。

本作が社会を変えるきっかけになると感じた出来事がありました。劇場の舞台挨拶を終えた私に早稲田大学の男子学生が「この映画を大学で上映したい」と声をかけてくれました。翌年、彼は仲間4人と企画して平和学の授業で上映会を催してくれたのです。しか

も樋口さんと私をお招きいただいて250人の学生さんたちとのトークセッションも行われました。また、国際基督教大学の女子学生が本作を大学の教授に強く勧めてくださったことから日本国憲法と新約聖書の授業での上映も実現しました。ものすごい行動力を発揮する学生さんたちを目の当たりにして、私は改めて映画には社会を変える力があると確信しました。

私は各地の劇場で可能な限り舞台挨拶に登壇したのですが、お客様との対話で特に印象に残ったことがあります。各地で何人の方が同様のことを話してくださいました。内容を簡潔に書きます。

・福島原発事故以降、自分も周囲の友人も脱原発のためのデモや投票行動をしていた。

・年月が経つにつれ、同じ志をもっていた人たちから「再稼働も仕方がない」という意見が増え始めた。

・周囲の変化に「私は間違っているのか……」と思い始めた。

・この作品を観て、私は間違っていないと確信を持てた。

世情は実に移ろいやすいです。加えて政府と大手電力会社による福島事故の実態から目をそらせる施策とジャーナリズムの無関心が原発を憂う人たちの心を惑わせているのです。映画を観終えて私に泣きながら「観てよかった」とお話しくださる方々に心を揺さぶられました。

劇場公開が終わった2023年2月から自主上映会の募集を始めると本当にたくさんのお申込みがあります。現時点までで230超の団体が各地で上映の輪を広めてくださっていて今も続いています。

福島の農業者さんたちとの交流はその後も続きました。近藤さんは常に新しい試みを行い、ソーラーシェアリングの可能性を日本中に広める努力を続けています。2023年の5月に「牛

を飼い始める」と近藤さんから連絡をいただきました。「ソーラーシェアリングで畜産？」と面白く思った私は牛が農場に来る日に撮影に行きました。映画を撮るといっても面白い出来事を映像に残したかったです。農場にやって来たのはホルスタインの雄の仔牛2頭でした。5か月ほど太陽光パネルの下で育ててから出荷するのと。

牛を飼う理由は、大きな石がたくさん埋まる耕作に向かない場所の有効活用です。石のために耕作機が壊れてしまう一部の場所は放っておくと雑草だらけになるため、近藤さんたちは牛を放牧して草を食べてもらうことを思いつきました。もちろん牛が好きな牧草も育てます。また、この農場にたくさん訪れる視察団にソーラーシェアリングの幅広い活用法を示すという理由もあります。牛がいることで農地は生き活きと見え、視察者たちに愛着を感じてもらえるのです。

原発事故の被災から立ち上がった近

藤さんは、単に農家として復活しただけではなく、ソーラーシェアリング推進連盟の共同代表として日本の電力の在り方を変えようとしています。牛を撮りに行ったことをきっかけに私は近藤さんの活動を多くの人に知ってもらいたいと思い、映画を作る決意をしました。

『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』には、近藤さんの二本松農場のほかに福島県伊達郡川俣町の齋藤広幸さんのソーラーシェアリング農場も登場します。前作のワンシーンにも登場した齋藤さんは、原発事故を機に2014年に脱サラして9代目を継いだ代々続く農家さんです。地元企業で工場の機械設備を設計施行する技術者だった齋藤さんは、なんと、ご自身でソーラーシェアリングを設計施行できるのです。太陽光発電を始めたきっかけは、2012年にご自宅の倉庫の屋根に太陽光パネルを設置したことでした。当時中学生だった次男の幸人さんと一緒に設計施行できた喜びと原発に

頼らない電力で生活できる確信、そして余剰電力を販売して収入を得られたことから、農地のソーラーシェアリング化に踏み切りました。

齋藤さんの集落の農家は原発事故後、次々と耕作を断念していききました。何を作っても売れないという放射能被害の実態です。齋藤さんはそれらの農地を次々と借り受けてソーラーシェアリング化しました。太陽光パネルの異物感から、始めた当初は周囲の人たちに理解されなかったものの、今では蘇った農地を見た集落の人たちから応援されています。

この作品は1年8か月かけて撮影しました。四季の変化と自然の力を利用した農業を描くには必要最低限の期間だったと思います。また、被災地福島放射線物質の除染の実態も描きました。今も福島県浜通りの6市町村では除染作業が行われていて、毎日黒いフレコンバッグを積んだトラックが大熊町と双葉町にある中間貯蔵施設まで運

んでいます。浜通りと中通りを結ぶ国道114号線の山道を通ると3台1組のトラックをよく見かけます。その数は1日延べ約200台。山林や集落、農地の除染作業はいつ終わるのかめどが立っていません。ニュースにならず、ほとんど知られていないこのことを描いたきっかけは、前作の早稲田大学での上映会で「原発が爆発する映像を初めて見て驚いた」という感想をいただいたことでした。原発事故を知らない世代が大人になっていくのであれば、事故を振り返るのではなく、現在進行形の被害を描こうと思ったのです。除染される場所の多くは元農地、広大な中間貯蔵施設も元は農地なのです。

そして歴史的な大飯原発差止訴訟判決の法廷で樋口英明裁判長が判決要旨を朗読したことも実はあまり知られていません。私は樋口さんをお願いして朗読を再現して撮影しました。映画の歴史に尊い樋口判決を刻みたかったです。

私はやはり、映画には社会を変える

力があると感じています。本作には前作を観て大学での上映を実現させた国際基督教大学の女子学生二人が登場しています。彼女たちは近藤さんの農場に1週間の自主研修にやって来ました。映画の世界を実際に見たい、体験したいと思ったのです。社会全体から見れば小さな出来事かもしれませんが、しかし、彼女たちは映画によって変わり、行動し、ソーラーシェアリングを身をもって知ったのです。

『陽なたのファーマーズ』は2025年9月6日に公開され、2026年3月から自主上映会が各地で開催されています。

映画は作家が考えてもいないことを起こします。ドイツに本拠地があるハインリヒ・ベル財団東アジア(韓国・ソウル)が本作の英語・韓国語字幕版の制作費を全面支援してくださいました。2027年に韓国で8回、ドイツで1回の上映会が開催されます。英語字幕版ができたことで世界各地でもご覧いただけることになりました。

これから映画がどのように育っていくのか楽しみです。ここまでお読みいただいた方はぜひ、自主上映会に足を運んでください。上映会スケジュールは『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』公式ホームページ (<https://hinata-movie.com/>) で確認いただけます。

(2026年4月2日・公開講演会)

筆者略歴(おばら・ひろやす)

1964年、大阪生まれ。大阪芸術大学映像学科卒。

TVCM700本以上。『日本人の忘れもの フィリピンと中国の残留邦人』第26回平和・共同ジャーナリスト基金賞、第38回日本映画復興賞ともに奨励賞。『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』第12回江古田映画祭グランプリ。最新作は『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』。

公開講演会記録

2026年後半の中国と世界

——中国経済の不振と不透明な中東情勢

多摩大学客員教授 結城 隆（会員）



はじめに——米・イラン停戦合意の意味

2026年6月14日、トランプ米大統領80歳の誕生日、同大統領はイランとの停戦に合意したと誇らかに公表した。停戦覚書の正式署名は同月19日にジュネーブで行われた。これで一件落着かとの観測もあるが、停戦から休戦への道のりは容易ではないし、3か月に及んだ戦争によるイランや湾岸諸国の石油関連施設へのダメージの修復にも相応の時間を要する。今次戦争によって発生した第3次エネルギー危機

の影響は、年内いっばいあるいは来年まで続く公算が高い。

米国が停戦を急いだ理由は2つある。まず、米軍の保有するミサイルが払底していることだ。4月末には、トマホークミサイルをはじめ主要なミサイルの在庫がほとんどなくなっている。イランに対する大規模かつ強力な空爆はもはやできない。しかも、在庫を充足するには、40か月以上もかかるという。次に、米国内では、この戦争を支持する国民は少ない。米国の民間世論調査機関ピュー・リサーチセンターによれば、戦争に反対する意見は

61%と過半を占めている。トランプ大統領に対する支持率も、25年の政権発足時の47%から40%まで低下している。しかも、6月3日、米下院は、共和党議員4名が離反し、議会が承認しない場合、戦闘を終結させるという議案を可決した。26年11月に中間選挙を迎えるトランプ大統領にとって、戦闘の継続は政治的にもマイナスになる。しかし、停戦が合意されるのと、それが遵守されるというのはまた別のことだ。米・イラン間で合意されたのは、ホルムズ海峡封鎖の相互解除とイランの核開発の停止など14項目だが、

その実施要領は今後60日間の交渉に委ねられている。封鎖解除が実施されても商船の「通行料」徴収が実施されるのか、濃縮ウランを誰がどこで管理するか、さらには、米国に凍結されたイランの資産が解除されるか、対イラン経済制裁をどこまで解除するのか、空爆の被害を受けたイランの復興資金をどうするのか、イスラエルによるレバノン攻撃の停止が実現するか、など課題は山積している。しかも、最高指導者をはじめ、数十名に上るイスラム革命防衛隊幹部の爆殺、テヘランをはじめとする各地に対するインフラ施設の攻撃に対するイラン国民の怒りと対米不信は強烈なものがある。イランは刀を構えたままであり、米軍も引き金に指をかけたままであり、イスラエルは依然「場外乱闘」を繰り返している。

仮に停戦が継続しても、滞留している600隻とも言われる商船が仕向け地に到着するまでに相応の時間を要する上、湾岸諸国からの石油積み出しがスムーズに再開されるかも不透明である。米軍によるイランの石油精製施設

への攻撃だけでなく、イランも湾岸諸国の石油・ガス関連施設に対し攻撃を行い、開戦1か月あまりで20か所を超える石油・ガス関連施設が攻撃を受けた。これらの施設の復旧にどの程度時間がかかるかは不明だが、湾岸諸国は建設労働者のほとんどをインド、パキスタンなど南アジア地域に依存している。開戦後、インド人労働者が15万人余り帰国したことを考えると、建設労働者が戻ってこなければ復旧作業に遅れが生じることは間違いない。

こうした状況は、世界経済にとって、物価上昇と成長率下押しの圧力となるだろう。それは中国も例外ではない。

一・中国の第2四半期の成長率は4%割れもあり得るか

第1四半期の中国のGDP成長率は5%だったが、第2四半期は4・1～4・3%程度まで落ち込むことになりそうだ。6月に公表された5月の消費と固定資産投資の伸びはいずれも前年

比マイナスとなった。輸出の伸びも4月の14・5%から11%に鈍化している。ひょっとすると4%割れもあり得るかもしれない。中国経済の宿痼とも言える雇用問題にともなう消費の低迷に、第3次エネルギー危機が影を落としている。5月のPPI（生産者物価指数）は、エネルギー価格の上昇を受けて3・9%と前月を1・1%上回った。石油関連製品価格の上昇は21%に及んだ。ただ、豚肉や蔬菜価格が下落しているためCPIの伸びは1・2%にとどまっている。

生産者価格の上昇は輸入インフレとも言える。しかし競争の厳しい中国ではおいそれとコスト増を価格転嫁できない。これに追い打ちをかけているのが耐久消費財の売り上げ急減だ。乗用車と一部家電を対象とした「以旧換新」助成金が26年1月から定額から定率に変更され、25年までの定額は最大給付額となった。例えば、15万元のEVを購入し手持ちのエンジン車を下取りに出した場合、25年までは2万元の補助金を受け取れたが、26年からは12

％、1万8000元となる。家電製品の場合、助成金は1件あたり2000元から5000元に減額された。

中国汽車流通協会によれば、乗用車の新車販売台数は1～5月累計で710万台と前年同期比19％減、5月単月では22％減となった。ガソリン価格が2割以上上昇したことにより、エンジン車の新車販売台数は5月単月で39％も減少している。合併メーカーに限ってみれば41％もの減少。同じく「以旧換新」助成金の対象となった家電製品の売り上げも、奥維雲網（AVC）によれば、3月単月で12％減となっている。中国でも猛暑が予測されている2026年だが、家庭用エアコンの売り上げも第1四半期で13・8％減、3月単月では18・4％減となっている。この影響もあるのだろう、広東省に本社を置く志高空調（2006年に三菱電機と提携している）が2月破産申請を行った。年間販売台数1000万台の大手空調メーカーの破産は、家電業界を震撼させた。ちなみに韓国のサムソンも5月にスマホ事業を除いたすべて

の中国での家電事業からの撤退を発表したが、これは需要の低迷に加え、ハイアールをはじめとする現地メーカーとの競争にとっても勝てないと判断したためだという。

この結果、消費の伸びは、4月に23年振りのマイナス0・1％となり、5月にはマイナス幅は0・6％まで拡大している。外食産業の客単価は25年の37元から26年に入って35元に下がった。フードデリバリーサービスの単価も33元から31元に低下、客単価15元の比率は40％から48％に上昇している。モルガン・スタンレーによれば、過去最長となった春節、4月の清明節、5月の労働節と続いた長期休暇の人は、清明節休暇を除けばいずれも2019年の水準を下回っているという。とくに都市部の消費は弱く、4月来マイナスが続いている。農村部の消費は2％台で堅調に拡大しているが、これは政府の農村振興策によるものだ。しかし、農村部の消費の伸びが都市部のそれをカバーするには至っていない。消費を牽引してきた富裕層はどう

か。「中国百富報告」で知られる胡潤研究院が5月に公表した富裕層（470人、平均総資産額6300万元、平均年齢35・6歳）の消費調査によれば、節約指向が目立っている。高級酒である白酒の消費が低下する一方、清酒に切替えたり、運転手付きの移動から自己運転あるいはネット予約タクシーを利用し、物品の購入は減らす傾向が顕著に表れている。消費については、旅行、健康・保険、子女教育に重点が置かれている。乗用車や宝飾品などの物品購入予定金額は2年平均211万元だが、前年に比べ10・2％減少している。今後の景気信頼指数は4年連続で下落している。ちなみに富裕層の収入の多くが経営性所得か移転性所得すなわち、自営業からの収入や株の配当・金利収入と言われる。サラリーマン経営者ではない。それだけに景気の先行きには敏感であるとも言える。収入が定まらなければ消費も覚束ない。消費低迷をもたらしている最大の要因が雇用不安である。大学を出ても就職は難しいという認識が広がったせ

表 中国の主要経済指標（国家統計局、申万証券）

		2026年3月	4月	5月
製造業付加価値額		5.70%	4.10%	4.50%
固定資産投資		1.70%	▲ 1.6%	▲ 4.10%
うち	インフラ投資	8.90%	4.30%	1.30%
	製造業	4.10%	1.20%	0.10%
	不動産	▲11.20%	▲13.10%	▲14.10%
	サービス	▲ 0.60%	▲ 3.60%	▲ 1.80%
社会消費		1.70%	0.20%	▲ 0.60%
消費者物価（CPI）		1.00%	1.20%	1.30%
生産者物価（PPI）		0.50%	2.80%	3.80%

いか、教育部によれば、26年の大学入試（高考）出願者数は、25年の1335万人から1290万人に減少した。16〜18歳の平均人口に占める出願率は、2024年の85%から26年は80%へと3年連続で低下している。16歳から24歳（在学生は除く）の失業率は16

〜20%と高止まったままだ。人力資源社会保障部によれば失業給付金受給者数は、数年前までは200万人前後で推移していたが、2022年の258万人から25年は463万人に急増した。中国の失業給付金は微々たるものだが、長く勤めているほど給付額は増える。給付者の増加は、10年前後務めていた給与所得者がリストラの対象になっていることが背景にあるのではない。チャイナ・ブリーフィングによれば、雇用不安のせいか、転職率も2023年の16.5%から25年には14.8%に低下している。JETROの調査によれば、人材確保について問題ないと答えた在华日系企業は採用に困難を感じると答えた企業を上回っている。雇用問題を背景に、賃金の伸びも思わしくない。賃金上昇率は、2024年の4.3%から26年は4%になると見込まれる。北京、上海といった大都市の場合、平均賃金額はほとんど上昇していない。都市部住民の所得の70%を占めるのが給与所得なので、賃金上昇率の鈍化は、消費を直撃する。

雇用不安の最大の原因は、産業構造の変化である。AIの急速な普及、IT化、生産現場でのロボットの普及により、ホワイトカラー層はより高度な知識が求められるようになっていく。引く手あまたなのがSTEM（科学・技術・工学・数学）人材だが、技術の急速な進歩に人材供給が追い付いていないようだ。一方、狭き門となりつつあるホワイトカラーを横目に、フードデリバリーワーカー、家政サービス、トラック運転手、オンラインストリーマー、宅配配達員、製造業労働者、建設労働者、清掃員、警備員といったブルーカラーの雇用は急速に増えている。中国新就業形態研究センターが6月に発表した報告によれば、ブルーカラーの就業者数は25年の2.8億人から26年の5月には3.2億人に増えた。最も多いのが家政サービス（約4700万人、4%増）、フードデリバリーサービスも6%増加し1600万人に達している。リストラされたホワイトカラーがブルーカラー職に転じるケースも少なくないと言われる。政府

のテコ入れもあって、ブルーカラー層の社会保険加入率は90%を超え、賃金の上昇率はホワイトカラーを上回っているものの、月収ベースで4000円（清掃員）〜1万円（家政サービス）と幅はあるが、平均すれば6000円程度であり、一般事務職の平均給与8000円を下回っている。

新たなテクノロジー社会の出現が雇用不安をもたらしていると言えるが、これを払拭するには人材育成、そのための大学などの高等教育機関のアップグレードが不可欠である。また、膨れ上がるブルーカラーやギグワーカーの教育訓練と社会保障の充実も必要である。中国政府は、右記についてすでに手を打っているが、その効果が目に見えて表れるにはまだ時間が必要である。

二．低迷する投資——デレバレッジングは最終局面か

消費も冴えないが、投資も冴えない。国家統計局によれば、26年1〜5

月の固定資産投資額は前年同期比マイナス4・1%となった。不動産開発投資のマイナスを控除してもマイナス1・2%である。製造業の投資の伸びは0・1%に留まった。一方、高度技術分野の投資は4・5%上昇、なかでも半導体とリチウムイオン電池業界の投資はそれぞれ11%、25%という高い伸びだった。しかし、これらは投資を引っ張るというよりも、底割れを防いでいるという印象を持たざるを得ない。2019年時点で、不動産開発および関連する建設資材、販売・不動産管理といった不動産関連分野のGDPシェアは25%にも上っていた。過去6年間でこれはほぼ半減したとみられるが、高度技術分野はまだこの欠損を埋めるに至っていないようだ。

投資低迷のもう一つの原因は、中国経済を悩ませてきた地方政府の隠れ債務の処理が佳境に入っていることではないだろうか。2024年以降、政府は上記問題に対し「6・4・2」政策を実施してきた。目標は2027年6月までに地方政府融資プラットフォーム

ムを全廃し、14兆元に及ぶ隠れ債務を2028年までに処理するというものだ。すなわち、24年から26年にかけて毎年2兆元の隠れ債務（城投債）を地方債（特別債）とスワップし（6兆元）、24年から28年にかけて毎年8000億元の特別債を発行（4兆元）、残り2兆元を都市環境整備、主に「城中村」の再開発に使用するというものだ。これにより地方政府の隠れ債務は長期低利債券に置き換わる。しかし、地方政府融資プラットフォームによる借入は全面的に禁止され、これを担ってきた城投公司是、もっぱら既存物件の管理・運営サービス業務や工業団地開発などの新規プロジェクトの企画立案にあたることとされている。後者については、入居率の低い工業団地の整理・統廃合といった後ろ向きの業務も含まれるようだ。

右記の処置は目標ではなく「任務」とされている。達成できなければ処分が待っている。25年6月時点で、地方政府融資プラットフォームの70%が閉鎖されている。27年6月の期限を前に

全廃は実現しそうだ。また破産・清算に追い込まれた城投公司も少なくないようだ。瘦せても枯れても城投公司是地方政府管轄の国有企業である。簡単にはつぶせない。ただ、国内約300社ともいわれる城投公司のうち234社が2025年赤字を計上している。これらの総資産合計は29兆元、負債比率は60%近い。26年に入って100社に上る城投公司が、格付け評価の取り消し措置を受けている。これに加え、中央規律委員会国家監察委は、過去3年から8年に遡って城投公司の査察を行うとしている。すでに、160社の幹部が腐敗容疑で失脚しているが、査察の網が広がるにつれてこの数はさらに増え、城投公司の整理・再編にもつながってゆくことになりそうだ。

投資に限定された専門債の発行は、26年2月の約4000億元から5月には1500億元、6月には1000億元と縮減の一途をたどっている。

次に、企業の投資意欲が慎重さを増している。人民銀行によれば、企業向けの中長期貸出は、この1～5月にかけて1・2兆元減少した。通常PPIが上昇すれば、その後を追う格好で投資が伸びるのだが、この上昇はエネルギー危機に起因していること、映像業の利益は1～4月にかけて18%増加したが、これはK字型であり、儲かっているのは情報通信機器や非鉄金属（利益はほぼ倍増）であり、それ以外の業種の利益は横ばいか減少となっている。ひかっている業種は一部であり、多くの業種が投資の手控えや見直しに走っているのがかわれる。

前年比で7115億元減少した。26年第1四半期には、さらに2911億元減少した。手持ちの預金を使って高金利の既存ローンを期前弁済する一方、住宅購入にあたっては借入比率を極力下げようとしているためだ。消費者ローンは、残高そのものが減少傾向にある。第1四半期で見ると、消費者ローン残高は、20・97兆元で、前年同期比マイナス0・1%減少した。消費者ローン残高の現象は2015年の不動産・株式バブル崩壊以降この十数年見られなかった現象である。

ついでに家計貯蓄についても見てみよう。26年1～5月の家計貯蓄は累計で5・63兆元増加した。しかし、月別に見ると4月が1・9兆元減、5月が1000億元の減少となっている。また、同時期、銀行の理財商品の残高も1兆元程度減少している。この3兆元はどこに行ったか、というのが話題となった。理由は2つあると思う。まず、預金を取り崩して既存の住宅ローンの返済に充当したこと。次に、定期預金の期限が到来したのを機に、より

利回りの高いと予想される株式投資に充当したことである。後者についてみると、26年1～5月のA株の新規口座開設数は1300万件で、前年同期比6割もの増加となっている。

このように見ると、投資の低迷には、「修復（バランスシート調整）」という側面があることが分かる。地方府の債務問題には出口が見えている。企業や家計の債務も調整が進んでいる。不動産バブルの崩壊や、テック企業に対する規制強化、そしてコロナ禍という三重苦により傷んだ経済の修復は相応に進展していると見るべきではないだろうか。低迷という面もさることながら「修復」が以外に早いスピードで進んでいるという面を見逃してはならないと思う。

三．2026年の中国経済と世界

2026年から始まった15次5か年計画における成長率目標は4・5%～5%とされている。第1四半期は5%、第2四半期は4%台になる見込み

だが、後半はどうなるだろうか。2つの見方がある。まず追い風。第3次エネルギー危機をきっかけに、脱炭化水素が想像を上回る勢いで世界中で進みはじめたことだ。新エネルギー車や太陽光発電パネルをはじめとする再生可能エネルギー関連機器に対する需要が世界的に盛り上がっている。これら製品の最大の生産シェアをもつのが中国である。これが輸出を下支えするだろう。中国の輸出拡大については過剰生産能力の捌け口という批判もあるが、これは当たらない。過剰生産能力問題は、あくまで国内競争の結果であり、最初から輸出拡大を目的としたものではないからだ。それに中国企業は単なる輸出だけでなく、現地生産も積極的に進めている。自動車産業がその典型だろう。これに加え、イラン戦争停戦後の中東の復興需要も期待できる。空爆によって主要都市のインフラが破壊されたイランには、すでに、中欧班列（ユーラシア・ランドブリッジ）のテヘラン支線を通じ、大量の太陽光発電パネルが流入しているという。イラン

の復興需要は数千億ドルに上るだろう。G7諸国がこれを賄うとの説もあるが、適役は中国だろう。戦争被害を受けた湾岸諸国も同様である。イランとサウジアラビアの国交回復を周旋したのは中国であり、停戦交渉の仲介役を務めたパキスタンは中国と強固な関係を保持している。イランのBRICS加盟も中国の斡旋の影響が大きい。総じて、中東諸国は米国よりも中国に信を置いているのではないだろうか。なにしろ、湾岸諸国のインフラ整備や再生可能エネルギー、それに通信・交通インフラの整備は中国主体で進められてきたし、中東地域には約100万人の華人が住んでいる。

一方で逆風も吹いている。まず、今次エネルギー危機により、世界経済の成長率が1～2%縮減することである。世界需要が低下すれば輸出の伸びも抑え込まれる。輸出の持続的な2けたの伸びは期待できない。雇用情勢が大きく改善する見込みも乏しい。そのため消費の盛り上がりも期待薄である。ネット通販大手のひとつ京東の創

立日である6月18日には、競合他社も巻き込んだ大規模なバーゲンが行われるが、国家市場監督管理総局は、京東が総額100億元に上る値引きを行うと発表し、大手他社もこれに追随したことを受け、誇大広告の疑義があるとして大手4社に警告を発した。バーゲンセールが盛り上がる前に水をかけた格好だ。また自動車業界に対しても過度な値引きや誇大広告の自粛を勧告している。補助金が減額される中、価格が上振れするとなれば、新車需要にも影響が出る。

これらの逆風を克服するカギは、投資の回復である。半導体や情報通信関連設備危機の投資意欲は高いが、それ以外の業種の投資をいかに盛り上げるかがカギとなるが、やはり、政府が音頭をとる必要があるだろう。チベットでは三峡ダムの3倍の発電能力を持つブラマプトラ川の2000㊦に及ぶ高低差を利用した1・2兆元の水力発電施設の工事が25年7月に開始された。この経済波及効果は決して小さなものではない。内モンゴル自治区や新疆ウ

イグル自治区での風力・太陽光の大規模な発電事業も着々と進んでいる。

また、高齢化に対応した「銀髪経済」やドローン技術を活用した「低空経済」も拡大基調にある。60歳以上の高齢者3・2億人の消費は26年10兆元に達すると見られている。高齢者の消費にいかに付加価値をつけてゆくかが課題だが、さまざまなビジネスが雨後のたけのこのように生まれている。高度1000㊦以下を飛行する機材を活用した低空経済は、まだ萌芽段階だが、宅配や移動サービスはすでに実用段階にある。政府は、盗撮など犯罪目的でのドローン使用を抑制するため所有者に対し、26年から使用目的などを記載した機体の登録を義務付けている（首都である北京は基本的に使用禁止）が、この経済規模は5000億元、参入企業は1万社を超えている。これまでに、政府は新たな技術を使った新規ビジネスが成長を遂げた後にさまざまな規制を後追いで打ち出すというパターンが少なくなかったが、テック企業に対する規制強化が業界をシュリンクさ

せてしまったことを教訓に、初期段階から規制の在り方を模索するようになっていくように見える。

これからの経済成長を支えるのは、投資・消費・貿易という従来のカテゴリーから、技術力・資金力・電力・気力という4つの力に移っているのではないかと思う。これを満たしている数少ない国の一つが中国ではないだろうか。第2四半期の中国経済には暗雲が立ち込めているが、後半以降、これら4つの力が徐々に発揮されてゆくのではないだろうか。その意味で、26年の中国経済は「前落後昇」となる可能性が高い。

おわりに——「政冷経穏」の日中関係

2025年11月以降、日中の政治関係は冷え切ったままの状態が続いている。しかし、両国の貿易関係は依然拡大基調を維持している。中国からの訪日客数は60%近く減少したが、在日中国人の数は増勢を維持しており、20

26年は100万人を超える見通しとなっている。悪さをする中国人もいることにはいるが、ほとんどが真面目で一生懸命に働く人たちである。経済団体との交流も少しずつではあるが、復活しつつある。26年9月の名古屋アジア競技大会、11月の深圳アジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議が、「政冷」状態を打開するタイミングとなる可能性はある。

「強くなければ生きてゆけない。優しくなければ生きてゆく資格はない」という言葉があるが、日中双方にとって必要なことは、生きてゆく資格を持つための「やさしさ」ではないだろうか。どうも、「強くあれかし」という思いが双方に目立っているような気がしてならない。それは互いの警戒感を刺激し、緊張を高めるだけではないだろうか。では「やさしさ」とは何か。互いを知り、理解することによって生まれるさまざまなレベルでの「共感」ではないかと思う。中国人の多くはアヘン戦争以後の100年を「国恥」と意識しており、強くなければ生きてゆ

けないと強く思っている。一方の日本人の多くは、戦前の日中関係についての知識も乏しいうえ、中国の経済成長を「強権・専制」と「ぱくり・ぼったくり」の賜物と、いささか見下してはいないか。しかも、先の大戦においては勝利したのは欧米連合国だが、連合国には中国が含まれていることを等閑視しているのではないか。

中国との経済交流がなければ我々の生活は根本から瓦解しかねない。レアアースだけではない。ウナギの99%が中国から来ている。蔬菜やニンニク、それにアサリも中国産が多い。冷凍食品業界は山東省の農業がなければ存続できない。このリアリティーを強く認識すべきである。

本文でも述べたように、中国経済の状況は樂觀を許さない。しかし、それは、日本の産業・経済が中国よりも良いということには決してならない。中国の政府や研究者は日本の「失われた30年」を真摯に研究している。一方、多くの日本人は中国の「粗探し」に主眼をおいているのではないか。そうで

はなく、中国の経済・産業を虚心坦懐に研究し、両国にとって学べきこと、教えることを見出し、両国の経済構造改革と持続的な成長に活かしてゆく知的・実務的努力が必要ではないかと強く思う。

（2026年4月17日・公開講演会）

筆者略歴（ゆうき・たかし）

1955年、福島県生まれ。一橋大学経済学部卒業。日本長期信用銀行入行。調査部、ロンドン支店、パリ支店、ニューヨーク支店を経て、1999年、ダイキン工業に。経営企画室、大金（中国）投資有限公司勤務。

2021年より多摩大学経営情報学部客員教授としてアジア・ユーラシア論を講じる。「虫の目、鳥の目、地球の目」で中国を定点観測する「中国観察報告」を四半期ごとに作成している。



国際善隣協会 公式 YouTube チャンネル

— 講演会アーカイブ映像を公開中 —



YouTubeで「国際善隣文庫」と検索
または下の QR コードからアクセス



このチャンネルの魅力

- 講師の生の声と映像で視聴できます
- 講演資料と合わせて理解しやすい構成です
- 本誌「善隣」誌と併せてさらに深く学べます
- いつでも無料でご覧いただけます



公式 HP はこちら

<https://kokusaizenrin.org>



講演会アンケート
ご協力をお願い

公開講演会の内容は本誌で活字として、また映像でもご覧いただけます。
ぜひご活用ください。

本の紹介

『満洲国の話』

が刊行されました

藤川琢馬（会員）

満洲国の話 古海建一

満洲国の各分野の活動を横断的に俯瞰し、
その実像に迫る。

政治を中心に扱う満洲国研究書が多いなか、本書は
経済、産業、金融、鉱工業、インフラなど多角的に分析、
満洲国の全貌を立体的に照らし出す。さらに関係者らの回想を収録し、
史料価値も高い。12歳まで満洲国で過ごした著者が
国際善隣協会で行った連続講話を拡充した渾身の書。

定価2530円

（本体2300円＋税10％）

「満洲国」に関心を寄せる国際善隣協会の会員にとっては、待ち望まれた『満洲国の話』の本が5月に刊行されました。遡りますと、協会の東北委員会が主催して2019年9月にスタートした、本協会元会長古海建一氏による連続講話「戦争の時代、そして満洲国を振り返る」が出发点でした（善隣古海塾と称しました）。満洲国、新京（現長春）で生まれ育った古海氏ご自身の立ち位置から、また数少なくなつた満洲体験者として、3つの戦争（満州事変、日中戦争、太平洋戦争）のすべてに絡んだ満洲国の歴史を振り返ることは、望まれた企画でありました。古海塾は毎回40名前後の参加者を得て好評に回を重ね、2020年コロナ禍により中断を余儀なくされましたが、2023年10月の第26回をもって終了しました。

その際聴講者から、このままではもったいない、ぜひとも成書として残してほしいという要望があり、古海氏はすでに90歳を超えたご高齢でしたが、改めて資料の整理、原稿の執筆に

着手されました。本書は満洲国に関わ
りが深い16話分の内容が下敷きとなっ
ています。この折私は当時の会長から
の要請もあり、本の制作に若干のお手
伝いをさせていただいたことで、本欄
のご案内を申し上げることとなりました。

本書では、満洲国の政治など特定分
野の問題に限らず、経済、産業、その
他一つの国を構成するうえのさまざま
な分野が扱われています。各分野を多
岐にわたって扱った書物としては『満
洲国史』（満洲国史編纂刊行会）が知
られています。研究以外にとって
は大著に過ぎません。本書では満洲国の
経済とやらんで国際収支や大東亜金融
圏制度までの問題を扱っていますが、
著者の専門的履歴からして本書の特徴
の一面と言えるでしょう。

読者にとってややほっとすること
に、協和会（満洲国協和会）の歴史の
ある時期、農村支援のための協和会活
動の記述があります。しかし日本の戦
局の悪化によって、協和会は日本国へ
の戦時協力体制へと転換してしまいま

す。前述の経済や産業においても日本
国に従属せざるを得なかったと同様、
満洲国の限界であり、そもそも建国の
目的であったとも言えることができ、基
本的に矛盾を抱えた満洲国でした。

読者にとってもっともほっとするこ
とは、社会インフラの整備に費やされ
た努力と実績ではないでしょうか。道
路・鉄道・都市建設などにおける、日
本の水準を上回るインフラ整備、教育
の近代化、科学技術の振興、医療行政
の確立などへの注力は並大抵ではな
く、これらのインフラは後世に引き継
がれたはずで

著者はアヘン専売についても触れて
いますが、なお説明が求められる領域
です。国策に基づいた結果多くの悲劇
を生んだ満蒙開拓団は、駒澤大学教授
加藤聖文氏にお願いした講話でした
が、本書への寄稿もいただきました。
氏の著作『満蒙開拓団』（岩波現代文
庫）にありますように、「国策」とい
うものの本質は現代にあっても変わら
ないと氏は指摘しています。

本書は敗戦時の混乱と引揚げ実現の

記述をもって終了しますが、これらの
状況は当時小学校6年生であった著者
に強い印象を与えたに違いなく、本書
の成立にもなんらかの影響を及ぼして
いるでしょう。著者は「あとがき」
で、満洲国とは何だったのだろうか
と、建国精神「王道楽土」と「五族協
和」について考察しています。この旗
印も矛盾を抱えたものではありません
が、一身を捧げる覚悟で民生の安定や
国づくりに邁進した多くの人たちがい
たことは、記憶にとどめておきたいこ
とです。

本書では先人たちによる回想録も多
く引用され、講話のなかにあったいく
つかの話題は独立した「コラム」とし
て詳述されました。本書によって、満
洲国とその時代への理解が深まること
でしょう。

『満洲国の話』古海建一著

発行 中央公論美術出版

四六版352頁

定価 2,530円（税込み）

中国

ウメツチンク

編・訳 上松玲子

観光振興に美的センスを

5月の連休、中国の観光市場が再び活気を見せるなか、各地の観光地に設置された人工的な演出や構造物が、「見るに堪えない」と批判を浴びている。余計な演出と酷評されたチャカ塩湖（青海省）に設置されたカラフルなハート形のオブジェをはじめ、歴史的な古楼を照らす過剰なレーザー演出、海岸に並ぶ巨大な空気人形、色とりどりの造花を敷き詰めた溪流沿いの道など、似通った景観が全国各地で見

られるようになった。

観光地から人工的な演出をすべて排除すべきだとは言わない。SNS時代には、旅先で写真を撮り、訪れた証を残すことも旅の楽しみの一つだ。多くの来訪者を呼び込もうと撮影スポットを設置すること自体は観光振興の手段として一定の意義があり、そうした努力は否定されるべきではない。問題は、何をどのように付け加えるかだ。人々が嫌悪するのは人工物そのものではなく、その土地の歴史や文化への敬意や美学的論理を欠いた、本来の景観や雰囲気を損なう演出である。

例えば、江南地方の水郷に置かれたプラスチック製の花のレリーフや漫画風の記念撮影スポットは、落ち着いた雰囲気との伝統的景観と調和せず、多くの人が違和感を覚える。また、「私はここであなたを想う」と書かれた青と白の標

識は、当初は郷愁を誘う新たな演出として歓迎されたが、各地で模倣された結果、陳腐な流行へと変わってしまった。同様に、「天空の鏡」やガラス張りの遊歩道、高所ブランコなども全国各地で乱立した結果、当初の高評価が大逆転している。

こうしたなか、最近話題の浙江省紹興市蘭亭景区の天章寺は、成長を模索する観光業界に新しい方向を示した。この寺には土産物店も、記念撮影スポットや派手なライトアップもない。しかし、その「何もなし」余白の美が高く評価され、「中国美学の最高峰」とまで称賛されている。

もっとも、天章寺も人工建造物であり、遺跡の上に再建された宋代風建築である。書をデザインした白い帷幕など後付けの演出もある。それでも高い評価を得ているのは、それらが場所の歴史や文化と

調和し、現代のデザインによって伝統的な美意識を再現・昇華しているからである。

現代の観光地づくりは、必ずしも手つかずの自然に戻ることを意味しない。重要なのは、地域の文化や景観にふさわしい美的センスをもつことだ。観光業界は短期的な話題づくりや集客効果だけを追うのではなく、美的価値を重視し、人々の記憶に残る長期的な地域の魅力を育てなければならぬ。そのためには美的センスを学び直すことから始めるべきである。

『文匯報』2026年5月7日

「デジタル監視」時代

近年、職場や生産現場ではさまざまなデジタル監視システムが導入されている。従業員の作業位置につけられた個人監視カメラ、パソコンの監視ソフト、業務用スマートフォン

時間を測定するスマートクックションまで登場している。

職場の安全確保や就業規律の維持、秘密の保護、生産性向上を図ることは企業の正当な権利である。しかし、際限なく従業員の私的領域に踏み込めば、知る権利やプライバシー権、肖像権を侵害するおそれがあるだけでなく、反発や「見せかけの頑張り」を生む原因にもなる。

職場管理には明確な一線が必要であり、企業は技術を過信するあまり過剰監視にならぬよう注意すべきである。

『新華日報』2026年5月14日

事実に基づかない市民通報

先日、ある親がオンラインで公表した子どもの対人トラブルについて復旦大学の沈奕斐副教授が「それはいじめには当たらない」と指摘したところ、その親は市民通報制度で繰り返し沈副教授を告発。

そのため、沈副教授は通常のエデュ活動さえ行えない事態に陥った。大学の調査の結果、沈氏の発言は「専門的かつ客観的であり、規則上の問題もない」と認定され、処分は行われなかった。

復旦大学のこの対応は、事実関係を曖昧にしたり双方に責任を押しついたりせず、また丸く収めるため教師に譲歩を求めることもなかったということで、多くの人々から評価された。しかし、事実に基づく調査によって当事者の正しさは証明されたものの、その「遅れて訪れた正義」の代償はあまりにも大きかった。当事者は心身ともに疲弊し、関係職員は所定の手続きに追われ、公共資源が無駄に消費された。

それ以上に人々を憤慨させたのは、事実と異なる申し立てをした者が代償をほとんど払わないことだ。通報者が数

本の電話や数通のメールを送るだけで、相手は「無実の証明」を迫られる状況に陥る。中には、告発された所属機関が早期に騒ぎを収めるために被告発者の正当な権利を犠牲にして、騒いだ者勝ちの決着方法に涙をのませる場合もある。しかし、そのような対応では問題の根本的解決にはならない。

監督や通報を行う権利は市民の正当な権利であるが、事実を捏造したり歪曲したりして他人を陥れてはならない。通報された組織は説明責任を果たすだけでなく、事実無根の通報による被害者が法的手段によって権利を守るよう積極的に支援する必要がある。また、公共秩序を乱す、あるいは法にふれる悪質な通報については、関係機関が法令に基づいて厳正に対処しなければならぬ。限られた公共資源を無意味な通報によって費

やされないよう、社会の公平と正義が守られるよう、制度の改善および真相究明、責任追及の徹底が求められる。

『天津日報』2026年6月3日

三峡から半日で兵馬俑へ

2026年7月1日の鉄道ダイヤ改正で、宜昌北駅（湖北省）から西安北駅（陝西省）への直通高速鉄道が初めて運行される。新たに1日2便が設定され、約4時間15分で両都市を結ぶ。これまで武漢や鄭州などでの乗り換えが必要だった湖北省西部から西安への移動が格段に便利になる。

これにより、長江三峡と秦始皇帝陵兵馬俑を半日以内に行き来できるようになる。沿線の観光資源を結ぶことで観光やビジネス、人的交流が活発化し、地域経済や文化交流のさらなる発展が期待されている。

『工人日報』クラシック版2026年6月18日

陶陶俳壇

句会
陶陶結果
2026年6月

兼題 「宗教」

馬場由紀子

傘寿前友偲ぶ会夏木立

日野正子

◎善一

傘寿とは八十歳のこと但现在では八十歳を超える人が多い。そのため八十歳で亡くなる方の偲ぶ会が、新樹の夏木立の中で行うことは何とも切ない。

◎えつこ

「夏木立」を調べていたら「人偲ぶとは語る」と夏木立（大井雅人）の句が出てきました。生気溢れるこの季節、在りし日の姿を語りあうのは七十年代後半の方々。懐かしさと身につまされる思いが混じり合い、なんとも切なく感じられました。

谷向こう風運び来る法・法華経

〃

◎キヨ衛門

法・法華経にこころ宗教上の意味ありか？ 単に語呂合わせか？

◎由紀子

春の訪れを告げる鶯の鳴き声ですが、この表記は面白い。真理というものは向こうの方にあって、それを風が運んでくれば得ることが出来るが、その風を掴まなければいつまでも真理を得ることができない。そんなことを思いました。

米粒の神様も待つ田植えかな

松島二三四

◎由紀子

七柱の神様が座す米粒。豊作になればなるほど神様が增えるのだろうか。それなら無事に収穫できることを祈ろうではないか。まずは恙無く田植えを終えることから。

薄暑光築百年の御涼亭

〃

◎紅杓

新宿御苑の御涼亭は天皇や皇族が新宿御苑内の温室を鑑賞する際の休息所として明治29（1896）年に創建され、大正13（1924）年現在の規模になり、クラブハウ

スとして使用された。設計者の森山松之助は「水の上に立つ御休息所」「夏の御散策の際に涼をとる建物」と設計意図を語っている。

仙人掌に神の御業のごとき花

えつこ

◎正子

まずサボテンの漢字「仙人掌」、次に「神の御業」と続き、日本人の宗教観（自然崇拝）を詠っています。その通りと感じます。

桑の実のキャビアに似たるそと触れ

〃

◎明良

桑の実は余り見ななげましたがキャビアとの対比は繊細ですね。韓国駐在時訪いだ蘭の蛹を食べた私と感性が違い痛み入ります。

御苑初夏手を繋ぐ人引かる人

瀬崎明良

◎二三四

上五から中七は、素っ気ないほどシンプルな流れですが、短い言葉で的確に景を描いてくれています。そして下五に何が続くかと思えば、手を引かれてゆっくり歩く（たぶん）お年寄り……。さまざま人が集い散策を楽しんでいた新緑の新宿御苑が見事に活写されています。三段切れにも見えませんが、中七から下五は一体に読めて気になります。

夏来る世を憚らず車駆る

〃

◎二三四

待ちに待った夏、ドライブにうってつけ。「オレは免許返納などしないぞ」という宣言と読みました。動詞の多さが躍動感につながり、「来る」「駆る」のK音で軽快さを増すようです。とても魅力的な一句。笑い事ではないけれど、笑ってしまいました。笑えるうちに手放した方がいいのかもしれませんね。

◎由紀子

春の滝熊野街道二人連れ

清原キヨ衛門

◎明良

私も熊野街道を歩きましたが瀬戸内側の神社道を一人でした。仲良し二人で歩く句に嫉妬を感じます。

◎紅杓

華厳の滝（栃木）、袋田の滝（茨城）とと

もに日本三名瀑の一つ、那智の滝（和歌山）の参道や熊野古道をのんびり歩けば、森の気配とともに神聖な空気を味わえるでしょう。

神社の御手洗水におぼろ月

〃

◎明良

荘厳な景色が見えるようです。

母の日や妻八十五の髪容姿

橋本紅杓

◎二三四

母の日を過ぎず愛妻を詠んだ一句。子どもたち、孫たちに囲まれてにやかに座の中心にいる。長年連れ添い慣れたはずの愛妻の、新しい魅力に気づいて照れる作者の表情まで見えるようです。

◎キヨ衛門

美意識や感謝、生命の尊さがあると感じられるか？

◎由紀子

母の日ということで、お子様が奥様を労っていらっしゃるのを横目で見ている作者というところでしょうか。作者の「母」はすでに亡く、もしかしたら奥様に「母」の面影を見ていらっしゃるのかもしれない。

線対称水面に若葉と超高層

〃

◎二三四

吟行先の新宿御苑で、池の水面を境にして、若葉と新宿の高層ビルが上下対称に映っている、という景でしょう。五月の明るい水面は映すものをより美しく見せますね。リズムがもつ少し整ったものともうかがえます。

◎えつこ

水面に逆さに映るところに着目したところが面白い。

溝浚へ令和に続く隣組

馬場由紀子

◎二三四

いまも町内会や自治会などで溝浚いの活動があるですね。隣組という措辞が共同体の絆と歴史を物語ってくれます。

夏蝶の翅の乱るる真昼かな

〃

◎二三四

ひらひらと軽やかに規則的に翅を動かす蝶、それが乱れている。昨今の暑さのせい、真昼には何かの魔力が働くのか。

*旧かな、新かな、作者の意図に任せろ。

令和8(2026)年度
役員・顧問・諮問会委員名簿

会長 井出亜夫

顧問(50音順)

岡田実(再)

加藤聖文

河合弘之(再)

高原明生

古海建一(再)

松重充浩

三原朝彦(再)

村田忠禧

八島継男(再)

矢吹晋

副会長

増野亨

(事務局長)

理事(理事就任順)

姜晋如

朝浩之

大類善啓

佐藤嘉信

高橋昇

畑尾成道

福島靖男

松葉敏弥(新)

常任監事 北野雅教

監事

林義之(新)

広江勉(新)

諮問会委員(50音順)

伊大知重男(新)

新宅久夫

瀬崎明

原田克子(新)

宮内雄史

村田嘉明

令和8(2026)年度
常任委員会 委員長・副委員長・委員名簿

○環境委員会(8名)

〈第2火曜日午後2時〉

委員長

福島靖男

副委員長

伊大知重男

委員

牛木久雄

澤村宏

杉山秀子

橋本公佑

○国際交流委員会(11名)

〈第2水曜日午後1時30分〉

委員長

姜晋如

副委員長

瀬崎明

委員

岡田実

佐藤建吉

成川敏夫

畑尾成道

藤井毅

○オブザーバー 荒木義修

○講演委員会(11名)

〈第2金曜日午後2時〉

委員長

松葉敏弥

副委員長

高橋昇

日野正子

委員

松重充浩

井出亜夫

加来洋二郎

木村正文

古閑哲

佐藤建吉 諏訪哲郎

山口直樹

オブザーバー 林成彬

○広報委員会(9名)

〈第3水曜日午後2時〉

委員長

高橋昇

副委員長

原田克子

委員

伊大知重男

井出亜夫

大類善啓

姜晋如

○東北委員会(10名)

〈第4水曜日午後1時30分〉

委員長

大類善啓

委員

古閑哲

新宅久夫

鈴木重治

塚原美津子

寺西修司

成川敏夫

村田嘉明

山谷悦子

渡辺澄江

○経営委員会(4名) 〈不定期〉

委員長

増野亨

副委員長

佐藤嘉信

委員

井出亜夫

藤沼哲朗

(委員は50音順)



◆令和8年度第4回理事会の議題（6月12日開催）

●審議事項

①各常任委員会委員について各委員長より提案があり、承認された。

②「茨木のり子生誕百周年、没後20周年記念日韓合同イベント」について方向性は承認された。

詳細は国際交流委員会と事務局で詰め、理事会に諮る。

③朝編集長の病気により事務局で関係者と諮り、7月1日付で原田編集長に交代した。

◆令和8年度第5回理事会の議題（7月24日開催）

●決議事項

①エレベーター更新対応

●報告事項

②各常任委員会・監事会報告

③事務局報告

（審議・協議事項を含む）

◆令和8年暑氣払い

（7月24日開催）

（事務局長 増野亨）

会員だより

◎新会員〈正会員〉

渡辺浩平氏 久野一郎氏

同好会だより

〈陶陶会〉馬場由紀子先生

毎月第2水曜日にオンラインで句会を開催しています。未経験者も大歓迎です。郵送やFAXでの投句もできます。興味のある方はぜひご参加ください。詳細は事務局まで。

〈陶謡会〉松木千俊先生

第2火曜日午後2時から。興味のある方は事務局へご連絡ください。未経験でも大丈夫です。（一人ずつの個人指導のお稽古もあります）

〈一石会〉

毎月第2土曜日午前11時から、7階談話室で暮会を開いています。参加希望の方は、開催日前々日（木曜日）までにメールで幹事（瀬崎明 aseken2000@gmail.com）までご連絡ください。初心者にも丁寧指導します。

みんなの写真館

美しいフルンボイル大草原

（表紙）

フルンボイル（呼倫貝爾）

大草原（中国、内モンゴル自治区）は、世界的に有名な天然牧場であり、総面積約10万平方キロメートルを誇る、世界三大草原の一つです。草原には3千余りの河川と500以上の湖沼が点在し、雄大で豊かな自然景観を形成しています。広がる緑の草原、澄み渡る青空、ゆるやかに流れる川が織りなす風景は、人々を魅了してやみません。草原の中を蛇行しながら流れる川辺では馬たちが静かに水を飲み、遠方にはなだらかな山並みが続き、空と山、草原、水辺が一体となった風景は、一枚の絵画のような光景です。私がこの草原を訪れた夏は一年のうちで最も美しい季節といわれています。（姜晋如）

花の寺・本土寺のアジサイ

（表4）

昨今、春から夏にかけては、桜、モクレン、サツキ、アジサイとなごむ花便りが日々の趣を彩る季節です。過日、千葉県松戸市の常磐線北小金駅の日蓮宗本土寺にアジサイを観に参拝した。ここは都心より車で約50分、北東に筑波山を望む地にあり、花の寺として関東の愛好家に広く知られています。日蓮の高弟が13世紀半ばに建てた寺とのことだが、起伏に富む丘を生かした広い境内は、京鎌倉の寺のような清廉さはないが、素朴の野趣に満ち将門の面影すら漂う地です。いまだ、外国人観光客に知られていない貴重な寺となっていますが、本土寺の「本土」とは「我此土（我が此の土）」つまり、お釈迦様が本当の仏となつて住む地「本土」に由来します。（伊大知重男）

2026年8月・9月の行事予定

8月8日（土） 11：00 一石会囲碁例会（於 7階談話室）

8月19日（水） 13：00 陶陶句会（Zoom）
兼題「月の句」および当季雑詠

9月3日（木） 14：00 公開 第14回 対面&オンライン講演会
「分かりにくい国際政治を現場からのルポや分かりやすい具体例、分析から解きほぐす」（仮題）
奥寺淳氏（朝日新聞編集委員：米中・日中・国際関係担当、元中国と米国の担当デスク）

9月9日（水） 13：00 陶陶句会（Zoom）
兼題「川を詠む」および当季雑詠

9月10日（木） 14：00 公開 第15回 対面&オンライン講演会
「アメリカ社会の現状（私の観察）」（仮題）
佐藤嘉信氏（当協会理事）

9月11日（金） 12：00 長寿祝賀会（於 新橋亭新館）
※会員で参加希望の方は、9月3日（木）までに、事務局までお申し込みください。

9月12日（土） 11：00 一石会囲碁例会（於 7階談話室）

9月17日（木） 14：00 公開 第16回 対面&オンライン講演会
「日本の中華料理—帝国主義、ノスタルジア、文化遺産」
岩間一弘氏（慶應義塾大学文学部教授）

※8月12日（水）～8月14日（金）は、事務局はお休みします。

8月・9月の会議予定

※8月は委員会などは休会です。

9月8日（火） 14：00 環境委員会
9月11日（金） 14：00 講演委員会
9月16日（水） 14：00 広報委員会

9月16日（水） 15：00 国際交流委員会
9月25日（金） 13：00 理事会
9月30日（水） 13：30 東北委員会

※下線は通常日程に変更あり。



みんなの 写真館

